

令和8年度事業計画

板橋保育園

板橋保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長	津川								
----	----	--	--	--	--	--	--	--	--

法人理念	笑顔を増やす		保育理念	自分のことが好きな子を育みます（養護）		自分のことができる子を育みます（教育）			幼児教育 において 育成すべき 資質・能力
保育目標	【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子を育みます ・あたまを使うことが大好きな子を育みます ・ひとと関わるのが大好きな子を育みます		令和8年度 法人テーマ			令和8年度 園目標	【保護者アンケートの意見を踏まえて】 1. 主体的に行動する子ども 2. 人となりが共に育つ子ども 3. 挑戦し続ける子ども 4. 思いを表現し伝え合う子ども		
年齢別目標	0歳児 ・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。	1歳児 ・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。	2歳児 ・食や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。	3歳児 ・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。	4歳児 ・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、気持ちを伝え合いながら考えて行動する。	5歳児 ・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。		①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力等の基礎	
保育の内容	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児			
推進	生命の保持	・食や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。	・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。	・自分でしようとする気持ちを大切に、基本的な生活習慣が身につくように見守る。	・健康で安全な生活に必要な習慣に意欲を持ち、自ら行えるよう援助する。	・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。		③学びに向かう力・人間性等	
	情緒の安定	・自分の思いをしくきや言葉で表す喜びを感じられるようにする。	・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。	・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。	・主体的な活動を通して自覚性を高め、自信が持てるように働きかける。	・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。		④幼児期の 終わりにまでに 育ってほしい 10の姿	
教育	健やかに 伸び伸びと 育つ	健康 ・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が強い、感覚遊びを楽しむ。	・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等戸外を十分に歩く。	・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。	・全身を使い、様々な道具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。	・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり続けることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。			
	身近な人と 気持ちが届く つながり合う	人間関係 ・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。	・友だちと一緒に追って楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。	・友だちと思いを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぶようになる。	・自分の意見をもち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。	・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもつ。	①健康な心と体		
	身近なものや 感性が育つ	環境 ・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を発音する。	・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。	・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。	・絵本、紙芝居、お話を通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。	・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。	②道徳性・規範意識の芽生え		
	環境構成	表現 ・生活の中で、様々なものから刺激を受け、心ゆくまで関わることを楽しむ。	・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。 ・友だちとの関わりを見守り、調整を図る。	・創造力を育むためのコーナーや構成遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。 ・雑音に応じて環境・言葉かけを調整する。	・遊びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。 ・自ら遊び、工夫し、遊びを発展させる。 ・主体的に遊び工夫し、発展させる。	・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を用意する。 ・縄跳びなどの運動器具を充実させる。 ・主体的に遊び工夫し、発展させる。	③社会生活との関わり ④健康な心と体 ⑤自立心 ⑥協同性 ⑦道徳性・規範意識の芽生え ⑧思考力の芽生え ⑨自然との関わり・生命尊重 ⑩言葉による伝え合い		
主な行事	【年間行事】入園式、慣れ保育、こどもの日、保育参加、保護者会、内科健診、歯科検診、七夕、夏祭りごっこ、防災引き渡し訓練、すまいるフェス（運動遊びを楽しむ会）、伝承遊びウィーク（お正月遊び）、部分、ひな祭り、お別れ遠足（5歳児）、卒園お別れ会、お別れと部屋の移動 【毎月の行事】誕生会、身体測定ウィーク、避難訓練	社会的責任	厨房と調理の一体化	異年齢保育	インクルーシブ保育	長時間にわたる保育	職員の資質向上	⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚	
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。 ・安全で安心できる保育環境を維持するため、事故防止や危機管理体制を整え、社会に対して説明可能な運営を行う。		・栄養士、調理師等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。 ・調理過程や食材に触れる機会を設け、五感を使った体験を通して「食べること」への主体的な学びを育てる。	・年齢という枠組みを超えて、互い良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。 ・年上児が年下児を思いやりて関わる経験や、年下児が年上に憧れて模倣する経験を通して、役割意識や自己肯定感を育てる。	・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。 ・遊びを通して様々な国の言葉や文化に触れる機会をつくり、国の違いを知る。	・個々の発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びと遊びの時間をバランスよく配置する。 ・健康と安全を第一に考え集団生活の疲れを受け止め、くつろげる環境を整備する。 ・家庭との連携を密にし、一日の生活が連続しなく安心して過ごせるように支える。	・すまいる委員会に設置する、人権協議委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得・維持・向上を図る。 ・職員の専門性向上と協働体制を整え、保育の質と安全性を高める。	⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現		